

## ～災害に強いまちづくり～ 美馬市総合防災訓練を実施

防災関係機関の協力体制の確立と、市民の防災意識の高揚を図ることを目的とした『美馬市総合防災訓練』が8月27日、脇町の吉野川河川敷グラウンドで実施され、市や市消防本部、美馬西部消防組合、美馬警察署、市内の消防団、自主防災組織などの各関係機関から約350人が参加しました。



▲防災ヘリで負傷者を救出



▲消火器を使って火を消す住民

訓練は、地震災害と風水害の発生を想定。

地震災害は、同日の午前9時10分ごろ、脇町付近の中央構造線系活断層を震源とするマグニチュード7.7、震度7の地震が発生し、市内各地で倒壊した家屋から出火、また道路や橋梁なども損壊したとの想定で、牧田市長を本部長とする災害対策本部の設置から始まりました。県消防防災航空隊のヘリコプターが出動し、被災地から負傷者を救助したのにつき、自主防災組織のメンバーらが消火器やバケツを使って初期消火。消防団員が放水をしたほか、消防署員らによる事故車両からの人命救助活動も行われました。

一方、風水害は、台風による豪雨で吉野川が危険水位を超えたため、樋門を閉鎖。このために内水があふれ、無堤地区で浸水被害が出る恐れがあるとの想定。「家屋への水の侵入を防ごう」と、消防団員や自主防災組織のメンバーらが土のうを作って、積み上げました。

また、訓練会場の一角では地震の揺れを体感できる「起震車」や、火災時の煙体験ができるコーナーが設置されたほか、美馬市社会福祉協議会の職員が災害支援ボランティアへの加入を呼び掛けました。

東南海・南海地震の今世紀前半中の発生が懸念されることもあり、参加者は本場さながらの迅速な動きで各活動に取り組んでいました。



▲土のうを積み上げる消防団員や自主防災組織のメンバー



▲「起震車」で地震の揺れを体験